

コミュニティ・スクールだより

～地域みんなでつくる、彦根の未来～

第10号
令和8年
10月1日
発行

発行：彦根市教育委員会事務局 生涯学習課

◆協議会や地域学校協働活動が進められています！Ⅱ

2学期も引き続き、各校で学校運営協議会が開催され、子どもたちの学びや成長について、さまざまなテーマで熟議が行われています。それぞれの地域の特色や願いを大切にしながら、地域の方々の声を学校運営に生かし、地域とともによりよい学校づくりについて考えています。

9月1日(火) 亀山小学校 第2回学校運営協議会

第2回の運営協議会は教員も全員参加する拡大会議で、各学級担任および養護教諭から、第1学期の児童の様子について報告が行われました。その後、**学校評価の結果を受け、「挨拶の意識向上」、「よりよい地域連携」、「人権意識・自尊感情の向上」の3つのテーマで、グループに分かれて熟議されました。**挨拶については、大人が率先して手本を示すことや、地域連携による声掛けしやすい人間関係・雰囲気づくりの重要性が確認されました。地域連携については、学校と地域の良好な関係を基盤とし、児童からのお礼状送付の検討等、さらなる連携につながる提案がされました。人権意識については、継続的な人権学習の実施や、地域住民との多様な交流機会の創出が有効ではないかとの意見が交わされました。限られた時間でしたが、教員と各委員が意見を交流し、今後の具体的な教育活動につながる熟議となりました。



9月9日(水) 南中学校 第3回学校運営協議会

第3回の学校運営協議会では、生徒の1学期や夏休みの様子、2学期の学校生活の予定について、教頭先生から説明がありました。その後、各委員からは、地域での夏休みの生徒の様子や地域の現状、今後子どもたちを地域でどのように見守り、支えていけばよいかなど、活発な意見交換が行われました。コロナ禍以後、地域での行事などが減り、地域での中学生の活躍の場がなくなっている現状から、**「活躍できる場を作れば自分が役立っている実感を味わえる。」「中学生が地域行事にボランティアで参加できるようにしたり、各活動のコーディネーターにしたりするのはどうか。」**などと熟議されました。また、学校からは諸活動に保護者、地域の方々のボランティアが増えてきたと説明があり、学校、地域と生徒をつなぐためには、人と人とのつながりを深くすることが大事であるとの意見が出されました。

最後に各委員がリフレクションメモに「発見・気づき・問い・疑問」などを記入してまとめました。(右図)

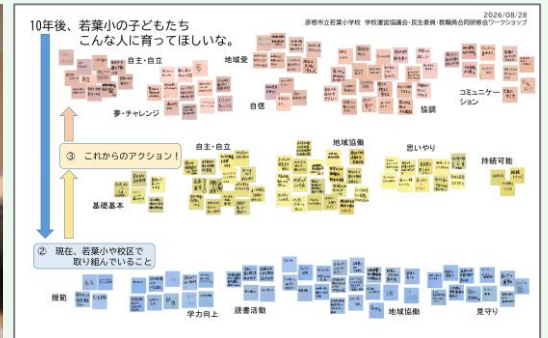


8月28日(金) 若葉小学校 第2回学校運営協議会

ピックアップ

県CSアドバイザーを招聘した合同会議の開催

第2回の学校運営協議会は民生委員と教職員も参加し、合同会議として開催されました。講師として、**滋賀県CSアドバイザー松田幸夫氏をお迎えし、「対話のある学校づくりでできる人が できる時に できることから」というテーマで講義とワークショップを実施していただきました。**講義では、コミュニティ・スクールに関わる基本的な内容や県内の地域学校協働活動の事例紹介等、ワークショップでは「若葉小の子どもたち こんな人に育ってほしい」という思いにつながら、「今できることやこれからできること」についてグループに分かれて熟議しました。キーワードとして、「自主・自立」「夢・チャレンジ」「コミュニケーション」「思いやり」などが出ました。このワークショップを今回限りとせず、短時間でも継続的に行うことの重要性も教えていただきました。松田アドバイザーは、「子どもたちと一緒に考え、子どもたちと一緒に作り上げることを大事にされており、大変参考になるお話ばかりでした。委員からは、「教職員も一緒に前向きな熟議ができてよかった。」との感想が出されました。



コミュニティ・スクール
Q & A

Q: 学校運営協議会の主な3つの機能とは？

- A: ①校長が作成する**学校運営の基本方針を承認する【必須】**
②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べる【任意】
③教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べる【任意】



学校運営協議会では、主にこの3つのことについて話し合います。中でも、①「学校運営の基本方針の承認」は、学校運営協議会の必須の役割です。令和7年の制度改正により、**学校運営の基本方針**には、**教師の業務量の適切な管理等に関する内容**も含めることとなりました。つまり、教師の働き方改革は、学校だけで考えるものではなく、学校運営協議会でも考えていく大切なテーマの一つということになります。「先生の負担を減らすにはどうしたらいいか」だけではありません。「**教員にとって本当に大切な仕事は何か**」を明らかにすることで、教師がやるべき仕事に専念できることにつながります。「**学校・家庭・地域で、それぞれどんな役割を担うことができるのか**」こうしたことを一緒に考え、学校運営に生かしていくことが、これからの学校運営協議会に求められています。